

縁プロジェクト活動報告 共に歩む通信



大田区 東松島市

No. 1

2014年8月20日発行

責任者

縁プロジェクト会長

仙 裕司

中学生が防災リーダーに育つ

避難所体験宿泊教室を開催

災害ボランティア
経験の若者が助言



日時：2014年8月8日午後5時～9日午前9時

場所：大田区立糎谷中学校

対象：①宿泊参加 中学1・2・3年生31名

②デイ参加 大田区在住・在勤・在学者45名

主催：大田区立糎谷中学校 学校支援地域本部

縁プロジェクト

協力：大田区地域力推進課、同防災課、蒲田消防署羽田出張所

西糎谷2丁目町会、西糎谷3丁目町会

費用：大田区地域力応援基金の助成金を活用

「助けられる側から助ける側の人間になるために」を目標に

参加した生徒たちは、体験プログラムの課題に「自分たちでやり方を考え、工夫して取り組む」ことを求められた。



救急法…心臓マッサージとAEDの
使い方を1人1人が実習



自分たちの寝るスペースを作る



学校備蓄倉庫の中を見て、災害時
に避難者に案内できると考えた

生徒たちの配り方は・・・

災害弱者に温かいおにぎりを、自分たちは冷たいおにぎりを

けがをして両腕が
使えません。

アルファ化米のわかめごはんをお湯で作ったものと水で作ったものがあり、生徒たちがおにぎりにして避難者全員に配る課題に取り組んだ。やり方は生徒たちが考える。すると、先に温かい方を災害弱者から配り、年配者に行き渡った後で、冷たい方を自分たちで食べた。

弱い者を守り、自分のことは後回しにすることのできる人が、信頼されるリーダーといえる。生徒たちは一気に防災リーダーに成長した。



避難所体験宿泊防災教室のコンセプト

想像

自分のこととして



懐中電灯だけでミーティング

学び

東日本大震災に



被災し避難所を運営した方の講演

共有

話し合い、つながる



自分にできることを出し合う

学校が避難所になったときに

自分にできることを見つけた

助ける側の人間になるための具体的なことが、たくさん見つかった。明るくあいさつする・重いものを運ぶ・小さい子と遊んであげる・掃除をする・話し相手になる……。生徒は被災した方の講演を自分のこととして聞き取っていた。30度近い暑さの中、夜8時を過ぎていても、真剣に学習していた。

被災地の学生や大田区の災害ボランティア経験の若者に生徒は親近感をもち、将来人の役に立つ仕事や人を助けること、ボランティア活動もしてみたいとアンケートに書く生徒が多かった。



生徒の活躍 と 地域の協力 との 相乗効果

地元町会を中心に45名のデイ参加者があり、中学生を温かく見守り、生徒の作ったおにぎりを「いつもよりおいしい」と、うれしそうに食べていた。また、障害のある人・外国人・幼児などの役をプレートを下げて演じ、生徒に工夫を促していた。被災地見学について2年生が発表をしたが、地域の人に聞いてもらえるよい機会なので、学校が夏休み中に準備したものである。生徒の活躍を地域の人目は細めて見ていた。学校が地域防災の拠点であり、地域住民の生徒への期待は大きい。

..... 3. 11から3年半経過した今だからこそ忘れない。

2011年3月は小学生だった生徒たちの多くが、被災した方の話を直接聞くのは初めてだった。津波に車ごと流された話に衝撃を受け、命の危機が間近にあると気付き、災害への心構えが大事と考え始めていた。「2日間で学んだことを忘れない」「3.11を忘れない」とまとめを発表する生徒がいた。

『自分から率先して動く』

『災害に備え学びたい』

～参加生徒アンケートより～

31名の参加中学生が、受講後アンケートに回答した。(1年女子10、2年男子4・女子9、3年男子5・女子3)

問 なぜこの研修会に参加したのですか。(複数回答)

答 防災に関心があるから 3名 友人が参加するから 14名 楽しそうだから 5名
参加が強制だったから 10名 入試に役立つから 1名 無答 1名

問 今回の研修会についての感想を教えてください。

答 よかった 22名 普通 8名 悪かった 0名 無答 1名

問 今後このような研修会があればまた参加したいですか。

答 参加したい 26名 参加したくない 5名

問 今回の研修会で、自分の中で変わったことはありますか。

答 ある 27名 ない 3名 無答 1名

自分の中で変わった点

- ・もっと協力ができる。
- ・もし災害があったときに、人を助けられる。
- ・自分から率先して動かないといけないと思った。
- ・人を思いやる気持ちが強くなった。
- ・朝食のときに障害のある人がいる設定で、手助けができたことで自分が変わった。
- ・この学校のことを知らない人に、できるだけ自分から進んで声をかけられたらいいなと思った。

問 もし被災した場合、自分は何かできると思いましたか。

答 はい 31名 いいえ 0名 ⇒記述の一部⇒

もし被災したら 自分にできること

- ・希望を持つ
- ・元気に笑顔であいさつ
- ・声掛けやみんなと協力する
- ・手伝えることを探して行動する
- ・皆に優しく接する
- ・困っている人を助けたい
- ・場所を教えたり、気配り
- ・小さい子を楽しませる
- ・お年寄りをサポートする
- ・ごはんを作る
- ・毛布などの必要なものを配る
- ・AED、心臓マッサージ

問 今回の研修会で感じたこと、思ったことを自由に記入してください。

- いざとなったら、ひとりが不安で何をすればいいかわからなくなるかもしれないけど、今日のことを思い出して、助ける側の人間になる。
- 私はお年寄りなどを忘れて自分達を優先していたのでみんなのことを考えて行動しようと思った。
- アルファ化米は水で作った方がおいしくなかったけど、まわりの人のことを考えると、冷たい方を食べてよかったのかなと思った。人を思いやるということはとても大切だと改めてわかった。
- 何かしらの災害はいずれやってくる。そのために備えておくことが大切だと思った。もし東京以外の場で災害がおきたら、今回体験したことを思い出し、また数々の支援をしたい。
- 今回の体験でいろいろなことを知った。やはり知識が大切だと思った。知識があれば自信をもつと思うので、これからも災害について学びたい。
- 避難所での生活は相当厳しかったけど、協力し合うことで乗り越えられるということがわかった。
- 話を聞いて大変だったことを知って、こんなに考えたのは初めてだと思った。話をまとめるのが苦手であまりできなかったけど、たくさん考えることができてよかった。

(答えの一部抜粋)

体験プログラムの流れ

～第1日～ ①開講式・ガイダンス…震度7の大地震が起き、電気・水道・ガスが止まり、交通・通信がストップした中、避難所に集まったと想定して、体験学習が始まる。



②救急法の講習…三角巾↑



③非常食…おにぎり作り↑



④地域の方が災害弱者の役を演じる↑



⑤被災地を見学したことを発表（写真左）



⑥被災し、避難所を運営した方の講演（写真前掲）

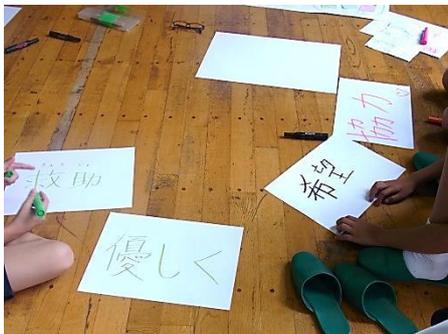
⑦ダンボールで寝るスペースを作る（写真前掲）

⑧大学生の助言を受けミーティング（写真右）

～第2日～ ①起床・支援物資配布・朝食…短時間で寝床を片付け、クラッカーとバナナを配る。



②投てきパック（初期消火）↑



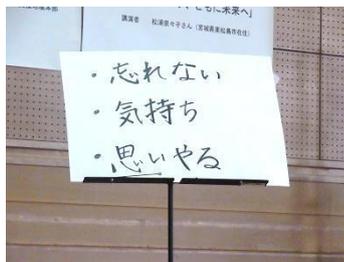
③まとめのグループミーティング↑



④まとめの発表・閉講式↑

⑤閉講後、記念撮影↓

⑥大事だと思ったこと↓



このパンフレットは、地域力応援基金の助成を受けて作られました。

緑プロジェクトホームページ

<http://otaenishiproject.jimdo.com/>

